

○ JAグループ群馬は、群馬県内で発生する豚ふん堆肥を原料としたオリジナル肥料（混合堆肥複合肥料）を製造し、県内で利用することで地域資源循環を図る。

■ 国内資源の種類

■ 肥料の種類・肥料名称

■ 取組の経緯・内容・成果（見込み）

豚ふん堆肥
水分25%以下（目安）
堆肥として届出しているもの

混合堆肥複合肥料
ブースター266
（県内豚ふん堆肥約35%使用）

取組の経緯

県産キャベツを中心に取扱うJA全農ぐんま「青果物一次加工センター」より排出される加工残渣を家畜の餌として利用している養豚農家の豚ふん堆肥を肥料の原料として活用し、肥料供給を接点とした地域資源循環型耕畜連携モデルの構築、及び持続可能な農業者を応援することを目的として、JAグループ群馬と朝日アグリア（株）で共同開発を行い、令和5年10月から販売。

■ 作物

■ 保証成分量(%)、特徴等

葉菜類・根菜類・果菜類
水稲・麦

N	P	K
12	6	6

- ・畑に蓄積しがちなリン・カリを抑えた成分（低P K）で土づくりに役立つ。
- ・堆肥と化成肥料を混合し造粒することで、散布作業の機械化に対応。

取組の内容

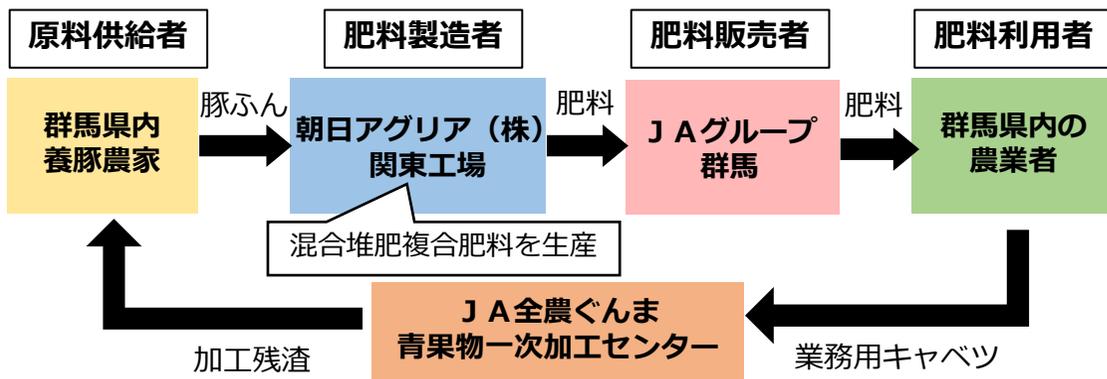
県内の養豚農家と原料供給契約を締結し、原料となる豚ふん堆肥は朝日アグリア（株）が生産計画に応じて収集。関東工場にて他の原料と混合し、ペレット化した肥料をJAグループ群馬オリジナル肥料として販売。

成果（見込み）

群馬県産の高品質な豚ふん堆肥を約35%使用、化成肥料と混合して一粒化することで、積極的に堆肥を使いたい耕畜農家と安定的に畜ふん処理をしたい畜産農家、双方のニーズに応えることが可能。

■ 主たる取組主体と肥料利用までの流れ

■ 今後の課題・取組



- ・肥料価格の高騰により、販売量は増加中。
- ・堆肥の利用が進んでいない地域等を中心に土づくりの観点で、利用を促し取扱い量の拡大を図る。

